

いであの次期社長に3月28日付で、細田昌広取締役国土環境研究所長が就任する。2006年6月に合併して7年目の現在、環境コンサルタント事業部門と建設コンサルタント事業部門が一体となって業務に取り組み、「シナジー（相乗）効果が進んでいる」と指摘。生物多様性の確保対策や海底資源開発に伴う環境・生態系調査など、長期的、将来的な需要にも目配りして対応する考えを示す。

経営の基本的な方針は

「コンサルタントは人と技術が基本。いであはこの人あり、この技術ありというところを伸ばし、会社の発展と社会に貢献することを中心に考えていきたい。そのためには若い人からベテランまで、技術開発に取り組みるように支援したい」

「他社よりも足のつめ1枚でも先を行くことが大事だ。もっと重要なのはそのリードを維持すること、これをやりやすい職場環境を保つ経営をしていきたい。技術だけでなく管理、営業、企画のすべて

いであ 細田 昌広氏



新社長に聞く

先行、そしてリード維持

「13年からの中期経営計画で3つの柱を挙げた。市場創生・新規事業の展開は営業と技術が一体となり、社会の正確なニーズを受信して技術開発をする。前回の中計で取り組んだイノベーションを担える人材育成の成果が表れてきたので、もう一歩先の技術開発で市場創生をしたい。もう一つの柱は、グローバル人材の育成、確保だ。会社が大きくなるとさまざまなこ

とがある中で、コーポレートガバナンスの強化も必要となる」

「当面は震災対応などで、既存の技術を使ったところを拡充する。その次の展開は、再生可能エネルギーだ。単独で事業者となるには、資格などの面でハードルが高いが芽は残しておく。再生可能エネの周辺分野として、気象予報と太陽光発電を組み合わせ、発電量を予測するシステムを開発中だ。洋上

「維持管理や長寿命化は、われわれの持っている技術力を生かして受注を増やしたい。アセット・マネジメントを担当している港湾AM事業本部に橋梁や道路の若手を集め、分野に共通する耐震設計などに取り組んでいる。この中で、外部との共同研究によって、非接触型で鋼材の肉厚を測定できるシステムの開発も進めている」

「インフラの老朽化、維持管理に向けて」

「維持管理や長寿命化は、われわれの持っている技術力を生かして受注を増やしたい。アセット・マネジメントを担当している港湾AM事業本部に橋梁や道路の若手を集め、分野に共通する耐震設計などに取り組んでいる。この中で、外部との共同研究によって、非接触型で鋼材の肉厚を測定できるシステムの開発も進めている」

風力発電は、海の調査が得意なので環境への影響調査のほか、漁業関係者との調整も手掛けたい」

「生命ソリューション事業本部は、食品などの安心・安全のためにノロウイルスなど食中毒の原因となる細菌類検査、残留農薬などを分析する。静岡県環境創造研究所は、生体試料中の微量化学物質などの分析、生物を使った化学物質の毒性試験などをする。商業化はまだ先になるが、海底資源の開発を見込んで環境の変化を予測できるモデリングなども進めていきたい。このほか、防災・減災のまちづくりがある」

「13年からの中期経営計画で3つの柱を挙げた。市場創生・新規事業は営業と技術が一体となり、社会の正確なニーズを受信して技術開発をする。前回の中計で取り組んだイノベーションを担える人材育成の成果が表れてきたので、もう一歩先の技術開発で市場創生をしたい。もう一つの柱は、グローバル人材の育成、確保だ。会社が大きくなるとさまざまなこ

（ほそだ・まさひろ）1979年東京水産大（現東京海洋大）大学院修了後、同年4月入社。96年環境情報研究所数値解析部主任研究員兼大阪支店数値解析部長、2003年執行役員環境技術本部長、07年常務執行役員国土環境研究所長を経て、11年3月から現職。埼玉県出身。53年4月14日生まれ、59歳。

記者の目

課題や対応方針、短期とボス（ことがない）とは周囲の評。運（ト）復興をにらんだ中期の時間（転、コピー、掃除まで率先垂範）軸も、整理されて頭の中に入（ているため、質問にはメモなど）を見ないで、むしろみなく（を）答える。 「人に迷惑を掛けない」を守る（ため、飲みに誘われると断れない）性格と笑う。人望があり温厚（だが、判断は常に冷静に下す）